



九州旅客鉄道労働組合

No. 484 (2021.8.27)

福岡市博多区博多駅前3丁目13-4

TEL 092-472-7950(代)

URL http://www.jr-krwu.org

発行人/芦原秀己 編集人/吉田春菜

LINE@



特集

第30回定期大会

JR九州労組は7月16日、北九州市で「第30回定期大会」を開催し、2021年度運動方針を決定した。執行部の提案に対して21人が発言し、芦原中央執行委員長をはじめとする新役員体制を確立した。(一部既報)

中原中央執行委員長あいさつ【要旨】

今も職場で安全・安定輸送の確保にむけて、業務を遂行していただいている仲間の皆さんに敬意を表する。この一年は新型コロナウイルス感染症という敵との闘いに明け暮れた一年となった。会社は危機的状況を乗り切るため、固定費140億円の削減を目的としたBPRを推し進めている。BPRも社員・組合員の理解と協力的な施策の成功とその先の明るい展望はあり得ず、そのためにも社



真剣に聞き入る大会代議員の皆さん

員・組合員に対する丁寧な情報の発信とステークホルダーとしての社員の処遇改善をあらゆる機会を通じて会社に訴えていかなければならない。JR九州労組一丸となってこの難局を乗り越えていく意思統一の大会とすることを要請し3点について申し上げる。

【安全の確立】

過去の重大事故の反省と教訓を踏まえ、これまでもJR産業に関わる全ての労働者の命を守るべく安全最

優先を訴え取り組みを展開してきた。引き続き、グループ会社、協力会社を含めた職場からの安全確立に全力をあげ、労働組合としてのチェック機能を発揮していただくことを要請する。

【政策課題】

新型コロナウイルス感染症に関わる取り組みは緊急的速やかに対処すべきとの認識の下、引き続きJR連合、九州交通労協や県交通労協と連携し取り組んでいく。更に、従来から取り組む減災・防災への対応や、

自然災害で被災した線区の対応などの政策課題解決に向けては、JR連合、JR連合国会議員懇談会、21世紀の鉄道を考える議員フォーラム、そしてJR九州労組議員団会議等との連携をより緊密かつタイムリーに取り組みすることとする。

【組織強化】

この厳しい時代を乗り越えるには、健全で民主的な労使関係に基づく運動を進めるJR九州労組の存在と強固な組織運営を通じた取り組みなしに実現することはできない。JR連合ビジョンで提起するとおり、働く仲間に関わり添い、思いを共有し、不安を解消して将来展望を示すという責任ある民主的労働組合運動の取り組みをJR九州労組一丸となって実践していこう。

来賓あいさつ

JR連合 荻山会長

日々安定安全輸送の確立をはじめ業務にご精励いただき、組合活動にも献身的に取り組まれていくことに感謝申し上げます。

JR連合は皆さまのご協力で昨秋、224,000筆の緊急署名を集約して国へ緊急要請し、雇用調整助成金の特例の延長、二島貨物の支援策の継続拡充といった成果を得た。しかし、固定資産税をはじめとする公租公課の減免等、JR各社の経営支援は聞き入れていただかず、JR各社の結束力の弱さを痛感した。

質疑

◇中村 秀人(博多支部)

支部で分会体制について協議を行うつもりだ。本部も支部が活動しやすい環境整備を共に検討して欲しい。出向者・嘱託再雇用社員、東京地区連絡会との関係も課題だと認識している。

◇山田 信隆(北九州支部)

役員の人材確保が課題となっている。活動の見直しとして会議の数を減らし、リモート会議も積極的に実施し、総対話集会は年1回の開催として欲しい。

◇永嶋 正己(本社支部)

旅費削減の観点からもぜひ会議を原則リモートとして欲しい。組合の経費削減の取り組みと、これまでの成果について具体的に説明を求めたい。また、組合費の低減の検討を行って欲しい。

◇小野 裕介(筑豊支部)

都市手当を廃止し公平な制度として欲しい。昨年の年末手当は大変厳しい数字となり、株主配当が据え置きであったことは多くの組合員が不満に思っている。業績が回復した際には期末手当が下がった分を含めて公正公平な還元を勝ち取れるよう強く要請する。

◇佐田 勝也(長崎地本)

西九州新幹線の暫定開業及び並行在来線の業務体制等を明らかにするために、中央本部がどのような取り組みを行ってきたのか明らかにされたい。また、暫定開業に向け、組合員目線の行動を要請する。

◇副業についてJR九州労組内で議論をすべきである

熊本乗務センター車掌が将来に不安を感じている。乗客数が回復したら、熊本地区の観光特急乗務の考え方を見直し、要員が少しでも増えるような働きかけを要請する。

◇70歳までに豊かに働ける賃金、勤務制度を策定し、

上の開きがある。早期の改善を要望する。西九州新幹線の課題解決については、本部と連携し更なる前進を目指して取り組んでいく。

◇遠藤 晃元(大分地本)

様々な事情から会社を去る仲間がおり、仲間の切実な声を汲み取り雇用を守る事が最優先である。無謀な効率化施策にストップを掛けるのは、私たち労働組合の使命である。机上の空論ではなく会社には現場を見て欲しい。組合は組合員の声に耳を傾けるべきである。

◇永嶋 正己(本社支部)

旅費削減の観点からもぜひ会議を原則リモートとして欲しい。組合の経費削減の取り組みと、これまでの成果について具体的に説明を求めたい。また、組合費の低減の検討を行って欲しい。

◇小野 裕介(筑豊支部)

都市手当を廃止し公平な制度として欲しい。昨年の年末手当は大変厳しい数字となり、株主配当が据え置きであったことは多くの組合員が不満に思っている。業績が回復した際には期末手当が下がった分を含めて公正公平な還元を勝ち取れるよう強く要請する。

組合員が納得して業務に取り組める制度改正を早急に勝ち取って欲しい。

◇遠藤 晃元(大分地本)

様々な事情から会社を去る仲間がおり、仲間の切実な声を汲み取り雇用を守る事が最優先である。無謀な効率化施策にストップを掛けるのは、私たち労働組合の使命である。机上の空論ではなく会社には現場を見て欲しい。組合は組合員の声に耳を傾けるべきである。

◇永嶋 正己(本社支部)

旅費削減の観点からもぜひ会議を原則リモートとして欲しい。組合の経費削減の取り組みと、これまでの成果について具体的に説明を求めたい。また、組合費の低減の検討を行って欲しい。

◇小野 裕介(筑豊支部)

都市手当を廃止し公平な制度として欲しい。昨年の年末手当は大変厳しい数字となり、株主配当が据え置きであったことは多くの組合員が不満に思っている。業績が回復した際には期末手当が下がった分を含めて公正公平な還元を勝ち取れるよう強く要請する。

◇佐田 勝也(長崎地本)

西九州新幹線の暫定開業及び並行在来線の業務体制等を明らかにするために、中央本部がどのような取り組みを行ってきたのか明らかにされたい。また、暫定開業に向け、組合員目線の行動を要請する。

◇副業についてJR九州労組内で議論をすべきである

熊本乗務センター車掌が将来に不安を感じている。乗客数が回復したら、熊本地区の観光特急乗務の考え方を見直し、要員が少しでも増えるような働きかけを要請する。

◇70歳までに豊かに働ける賃金、勤務制度を策定し、

上の開きがある。早期の改善を要望する。西九州新幹線の課題解決については、本部と連携し更なる前進を目指して取り組んでいく。

組合員が納得して業務に取り組める制度改正を早急に勝ち取って欲しい。

◇遠藤 晃元(大分地本)

様々な事情から会社を去る仲間がおり、仲間の切実な声を汲み取り雇用を守る事が最優先である。無謀な効率化施策にストップを掛けるのは、私たち労働組合の使命である。机上の空論ではなく会社には現場を見て欲しい。組合は組合員の声に耳を傾けるべきである。

◇永嶋 正己(本社支部)

旅費削減の観点からもぜひ会議を原則リモートとして欲しい。組合の経費削減の取り組みと、これまでの成果について具体的に説明を求めたい。また、組合費の低減の検討を行って欲しい。

◇小野 裕介(筑豊支部)

都市手当を廃止し公平な制度として欲しい。昨年の年末手当は大変厳しい数字となり、株主配当が据え置きであったことは多くの組合員が不満に思っている。業績が回復した際には期末手当が下がった分を含めて公正公平な還元を勝ち取れるよう強く要請する。

◇佐田 勝也(長崎地本)

西九州新幹線の暫定開業及び並行在来線の業務体制等を明らかにするために、中央本部がどのような取り組みを行ってきたのか明らかにされたい。また、暫定開業に向け、組合員目線の行動を要請する。

◇副業についてJR九州労組内で議論をすべきである

熊本乗務センター車掌が将来に不安を感じている。乗客数が回復したら、熊本地区の観光特急乗務の考え方を見直し、要員が少しでも増えるような働きかけを要請する。

◇70歳までに豊かに働ける賃金、勤務制度を策定し、

上の開きがある。早期の改善を要望する。西九州新幹線の課題解決については、本部と連携し更なる前進を目指して取り組んでいく。



しているのか分からないなど不安の声が多い。全社員が一丸となってこの難局を乗り越えるためにも会社と組合で勉強会を行うなどして、情報共有していくべきである。

◆松本 雄太(長崎地本)  
組合員は西九州新幹線開業後の体制に不安を持っている。会社に早期に情報開示させ、様々な議論がされるべきだ。

◆西 賢治(北九州支部)  
JR九州労組の専従役員は任期を設けるよう要請する。また、次期役員は組合員から信頼される役員になっていただきたい。

◆野中 泰輔(博多支部)  
現在、出向等の雇用調整が発生しているが、出向を希望する声も多く聞く。組合側も組合員の声に配慮されるような出向先を確保できるように議員団会議等と協力し取り組んで欲しい。

◆堀 瑞穂(熊本地本)  
地域社員への住宅援助金の支給を要望する。  
事業所内保育所等を開設するなど、今まで以上に育児をしながら働き続けることが出来る環境を構築して欲しい。

担を会社との交渉により改善することを求める。  
住宅援助金の増額と、社員寮の年齢制限撤廃を要望する。

◆大坪 宏平(本社支部)  
本社支部は剰余金の本部返還をしたいと考えている。本部は、支部並びに地本の剰余金を返還する仕組みを制度化していただきたい。

◆西 賢治(北九州支部)  
JR九州労組の専従役員は任期を設けるよう要請する。また、次期役員は組合員から信頼される役員になっていただきたい。

◆小野 健介(大分地本)  
各種効率化等について、各組織が意思統一を図るために代表者会議等を設定し、全組合員で足並みを揃えるべきである。今後の効率化施策等に対し、本部は、どう対応していくのか具体的に明らかにされたい。

◆野中 泰輔(博多支部)  
現在、出向等の雇用調整が発生しているが、出向を希望する声も多く聞く。組合側も組合員の声に配慮されるような出向先を確保できるように議員団会議等と協力し取り組んで欲しい。

◆松本 雄太(長崎地本)  
組合員は西九州新幹線開業後の体制に不安を持っている。会社に早期に情報開示させ、様々な議論がされるべきだ。

の維持、雇用の確保の観点から慎重に協議をして欲しい。

◆堤 清輝(運転部会)  
本部からは、来年度の定期委員会をもって業種別部会を廃止することが望ましいとされた。本部として業職種別部会とはどういう存在であったのか明らかにされたい。

◆税所 考也(熊本地本)  
熊本車両センターのDE10の老朽化が進んでおり、継続してDD200の購入を後押しして欲しい。

◆西 賢治(北九州支部)  
夏場になると気動車の冷房機器が止まり、対応に苦慮している。根本的な対策が必要である。

◆小野 健介(大分地本)  
各種効率化等について、各組織が意思統一を図るために代表者会議等を設定し、全組合員で足並みを揃えるべきである。今後の効率化施策等に対し、本部は、どう対応していくのか具体的に明らかにされたい。

◆松本 雄太(長崎地本)  
組合員は西九州新幹線開業後の体制に不安を持っている。会社に早期に情報開示させ、様々な議論がされるべきだ。

・効率化や働き方について組合員の声を聞き、逆に会社側に提案していくべきだ。また、コロナ禍で若手社員、中堅社員の離職や休職が増えている。現状の調査を要望する。

◆育児休職から復職後の深夜帯勤務免除の期間は、子が中学校3年生修了するまでとし、深夜帯勤務免除適用の条件をなくして欲しい。

◆嘱託社員・地域社員に住宅援助金制度を新設して、社宅・寮を利用できるように拡大して欲しい。

◆地域社員の社員登用は本人の意志を尊重し、地域社員時に培ったスキルや経験を活かせるよう地域社員で働いていた職場または職種にも就けるようにして欲しい。

◆地方連合は対応する連合体の実態を正しく伝え、あるいは要望をしっかりと訴えていくことが、非常に重要になっている。具体的な人選は佐賀支部の意向も踏まえて検討する。

◆吉田広報部長  
公式LINEアカウントの登録状況を見ても、デジタルで新聞等閲覧している組合員は少なく、今、新聞を廃止すると情報が届かない組合員が出てくるため、デジタル化は引き続きの課題と認識し対応していく。

者の所属の整理も図りたい。組合未加入者にしっかりと呼びかけを行って欲しい。ホームページ等の活用については、広報部と調整しながら進めていきたい。

◆組合員との対話を重要視しており、総対話集会は、これまで通り年2回で実施していく。

◆毎年業職種別部会に対して中央執行委員会より諮問をしているが、今年も、4部会中3部会が答申を出しておらず、諮問機関としての体は成していないと判断した。来年の廃止は部会の代表者も含めて検討したことになる。

◆木村中央執行委員長  
新型コロナウイルス感染症に関わる政策課題はJR連合とともに協力して進めていく。ワクチン接種による差別が発生しないように注視していく。

◆883系のドライブレコダーについて、会社は検証期間中であり、意見も踏まえて考えていくとのことであった。カメラの撤去は引き続き求めていく。赤外線機能については、会社に確認したが問題はなかった。

◆西九州新幹線については、引き続き会社に情報開示を求めていくとともに、対策会議を実施し、課題抽出をおこなっていく。

た。現状打破に向けて取り組みを強化していく。  
・乗務員以外にも不規則な勤務がある。会社にはしっかりと投資をさせたい。時代にあった働き方を求めたい。

◆特急通勤の制度については、利用しやすい制度を求めて会社と議論していく。

◆2020年度の春闘交渉妥結時において、会社は高年齢者を含めて賃金の見直しを求めていると口頭で示したが、コロナ禍で白紙状態になっている。短日数制の負担感、負担軽減について、労協協議の中では、短日数制の要員は1としてカウントしていないとのことであり、もし短日数勤務に関する齟齬が出ているのであれば、改めて具体的な職場を教えていただきたい。

◆発表会等の負担軽減も引き続き会社に求めていく。

◆883系のドライブレコダーについて、会社は検証期間中であり、意見も踏まえて考えていくとのことであった。カメラの撤去は引き続き求めていく。赤外線機能については、会社に確認したが問題はなかった。

◆西九州新幹線については、引き続き会社に情報開示を求めていくとともに、対策会議を実施し、課題抽出をおこなっていく。

ていくということはあってはならず、しっかりと対応していく。

◆都市手当については入口論から会社と対立をしており、引き続き粘り強く協議していく。

◆休業については、会社は鉄道の運行に支障しない業種、要員を見て判断することであったが、系統間のバランス、格差については引き続き是正に向けて取

◆専従任期の見直し  
権利と義務も含めて議論しなければならぬ。課題認識はあり、今後対応していきたい。

◆安全の確立  
現場目線の取り組みを着実に推進し、労働組合としてのチェック機能を発揮するとともに、JR九州連合に結集するグループ労組への連携を強化していく。最重要テーマに掲げる「すべてのJR関係労働者の死亡事故、重大労災ゼロ」の完遂に向け、一緒に行動を展開していきたい。

◆組織強化・拡大  
コロナ禍により現在の生活実態に対しての不満や将来を不安視する声が多く寄せられている。働く仲間へ寄り添い、その解消に向けてみんなで連携して取り組むことが重要となる。組合活動の原点である世話役活動の重要性を全員で共有し、職場からの運動を通じて、主体的な運動を創り上げて頂くことを要請する。

り組んでいく。  
・BPRプロジェクトの社員へ伝え方には会社も課題認識を持っている。今後の動向について注視していく。

◆児玉男女平等担当部長  
地域社員の住宅援助金を求める声は非常に大きいと認識している。実態把握のためにも来年度も女性組合員アンケートの協力をお願いする。

◆政策課題の実現  
政策課題の実現、取り巻く厳しい環境の打開に政治の力は欠かせない。来る国政選挙や中間地方選挙における各推薦候補者の当選に向け、JR九州労組は総力戦で臨むこととする。組合員・家族の皆さまの引き続きのご協力をお願いする。

◆最後に  
コロナ禍により変化する社会を受け入れる価値観を持ち、柔軟に対応し、丁寧な合意形成をもって着実に歩みを進めることができるかどうか、この大きなテーマが課せられている。この難局を総団結と連帯で乗り越えていきたい。

◆大久保業務部長  
期末手当に関しては、団体交渉において会社へ一貫してステークホルダーに対して平等に取り扱うべきだということを、主張してき



今大会で新任した中央執行委員長 今大会で新任した中央執行委員長

執行部答弁